

さいたま市に発電機を寄贈したAGSの原俊樹社長（左） 3月28日、さいたま市見沼区



さいたま市に 発電機を寄贈

AGS

情報サービス業のAGS（さいたま市浦和区）はさいたま市の環境教育施設「みぬま見沼館」（さいたま市見沼区）に再生可能エネルギーを利用した発電装置を寄付し、

3月28日に同施設で寄贈式を行った。災害時の非常用電源

設備として利用でき、発電状況をリアルタイムでウェブサ

イトに表示。脱炭素化社会の実現に向けた実証実験として、今後5年間の発電データを市に提供する。

AGSはさいたま市の「環境教育ネットワークパートナー」で、市内の学校や団体の環境教育活動に取り組み。発電電力量の情報などを公開することで、環境教育教材として活用する予定。発電機はプロペラ式の風力発電とソーラーパネルの太陽光発電を合わせたハイブリッド型で、自家発電により平常時は電灯として稼働する。風力と太陽光合わせて1日約1キロワットを発電し、最大2キロワットを蓄電。災害時は電源に直接つなぐことで、スマホ約200回分の充電ができる。

原俊樹社長は「今回の取り組みが少しでもさいたま市の環境行政、政策に役立てば」と話した。（坂口菜摘）